

破産し危境に立っているのは支配の側だ。  
腹をきめて、今こそ思いっきり叩いぬこう！

津田沼

津田沼支部職場集会は、8月27日、講習室に50名の組合員が集まる中、本部より片岡・重見両執行委員の参加をえて開催された。

綾部副支部長の司会のもと、はじめに山下支部長から「臨調答申は、政府支配階級の体制的危機―国鉄危機の暴力的突破をかけた攻撃であり、支配の側からの階級的決戦突入宣言である。明らかに戦争にむかって国家総動員体制をつくり上げようとするものだ。だからこそ彼らは、日本労働運動の背骨たる国鉄労働運動を叩きつぶしたいと狙っているのだ。われわれは臨調攻撃をはねかえす叩いを、反戦の砦・三里塚闘争の勝利に固く結合して、どんづまりの危機であがいている政府・自民党の82・83年の凶暴な反動攻撃を更力でうち破り打倒する一大反撃戦として叩い、勝利しよう。」との基調が述べられた。

また、片岡本部教宣部長からは、具体的な情勢と方針が提起され討論に移った。

津田沼支部では、これまで7・30臨調答申抗議集会、8・16・20全組合員対話オルグ、などをこつみ重ねて、この日の職場集会をもったのであるが、その中で論議された主要な点は、①職場はわれわれのもの。既得権防衛の叩いは決定的に重要。②「11項目」攻撃との対決の重要性。そのための反撃の方針。本部革マルの「フルト」裏切りの決定的重大性。③「労働運動」の推進者、新マル生分子④12・24上げの張本人⑤勤労本部革マル、嶋田・斉藤・野口、および送りこみ革マル分子⑥海軍糾弾・追放の重要性⑦5・11反合同争と10・11三里塚総力決起を固く結合して勝ち取る中に勝利の道があること。

等であり、こうしたねばり強い叩いを長期に押し進め、ビクビクしない

「緊急11項目」攻撃を断じて許さず、  
職場を反撃の砦に叩いていこう！

館山



「津田沼支部通信員・発」

「臨調基本答申粉碎、5・11合理化粉碎」館山支部職場集会は、本部から水野副委員長を迎え、組合員40名を結集し、8月28日13時から開催された。

はじめに、初山副支部長が司会者あいさつのなかで、本日の集会の目的を明らかにしたあと、川名支部長から「オニ臨調答申の具体的な内容、5・11をめぐる情勢、勤労千葉の叩く方向性について25分間にわたる基調報告が行われた。

つづいて本部を代表して、水野副委員長は、最近の全国各主要都

抜かなければならない」と述べた。すべての組合員が現情勢を正しく認識し、支部執行部を先頭に決起することを訴え、討論に移っていった。

討論では、「緊急11項目」攻撃の問題が出され、同時に、現場当局が「運動席背面の遮光幕を上げてくれ」と、東京をひき合いに出してしつこく申し入れてきているが、全員き然と叩いていることが報告された。一時半にわたる活発な討論が行われ、14時30分、川名支部長の首領で全員の意気高い「団結カンパロー」をもって、終了した。

臨調・行革粉碎／三里塚ジェット闘争勝利／

臨調攻撃粉碎・57・11合理化粉碎・10・11三里塚総決起

8・27津田沼支部、8・28館山支部職場集会開かる